

進むインフラ整備と自動車関連産業の集積

昭和五〇年、北九州市に隣接する菊田町に日産自動車九州工場が操業を開始します。これがまさに九州における自動車産業の歴史の始まりでした。

そして、平成十六年のダイハツ車体（現在のダイハツ九州）の大分県中津市への移転、十七年のトヨタ自動車九州菊田工場操業開始により、更に集積が進み、現在、京築地域には数多くの自動車関連の企業が立地し、「カーアイルランド九州」の拠点として重要な役割を担っています。

「京築産業力新時代」

平成十八年に開港した北九州空港や整備が進む東九州自動車道、重要港湾菊田港、JＲ日豊本線など広域交通網、物流インフラ整備によって、さらに工場立地が進む京築地域。北九州から中津をつなぐ産業ベルト地帯がたちあがり、二十四時間運用の空港の活用による農林水産物の首都圏市場への進出など、新たな可能性も開けてきました。

経済発展と自然環境の豊かさの両立。それは、新時代における京築地域の産業力の目指す姿です。

人、モノの流れを支える陸海空のインフラ。九州における自動車産業の集積は、京築地域から。今後も、その社会的実績を伸ばしていきます。

自動車産業の歴史の原点として

- 1 北九州空港
- 2 トヨタ自動車九州（株）九州菊田工場
- 3 日産自動車（株）九州工場
- 4 ダイハツ九州（株）大分（中津）工場



- 1 北九州空港
- 2 主要地方道厚川豊前線
- 3 桜並木（行橋市）
- 4 高の宮大橋（築上町）

